

2012年 11月 20日 Vol.0072

鈴木宗男事件 ①

EPUB版：<http://foomii.com/00027-13027.epub>

■鈴木宗男事件とは

2002年初頭、突如鈴木宗男・衆議院議員をめぐるスキャンダルが浮上する。北方4島の支援事業をめぐり、さまざまな疑惑が取りざたされたのだ。マスコミのバッシングは日に日に高まり、国会の証人喚問では『疑惑の総合商社』とまで罵倒されるに至った。2002年6月19日、鈴木は現職の国会議員でありながら東京地検特捜部に逮捕されてしまう。

- ・「やまりん」から500万円を受け取ったとされるあっせん収賄罪
- ・島田建設から600万円の賄賂を受け取ったとされる受託収賄罪
- ・政治資金規正法違反（虚偽記載）
- ・議院証言法違反（偽証）

以上4つの罪に関して立件。鈴木は検察と全面对決の姿勢を見せるが、2004年11月に出された1審では懲役2年の実刑判決。2008年2月の高裁判決でも、1審判決の内容は全く覆らなかった。2010年6月現在、最高裁判決を待つ状態にある。

鈴木宗男と共に対ロシア交渉に尽力してきた外務省の元主任分析官・佐藤優も、同時期に逮捕・投獄されている。佐藤はノンフィクション作品「国家の罠」（新潮文庫）を上梓し、鈴木宗男、・佐藤優事件が特捜検察による「国策捜査」だった事実を明かした。この作品はベストセラーになり、「国策捜査」なる日本語が「広辞苑」に新規採用されるほど大きな影響を与えた。

特捜部の強引な捜査・取り調べを経験した鈴木議員は、国会の場や様々なメディアを通じ、検察の問題を追及している。鈴木宗男事件によって「特捜検察＝正義」という神話は崩れたともいえるだけに、判決の行方が注目されている。

■ 「ムネオハウス」「疑惑の総合商社」の狂騒

≪主文

被告人を懲役2年に処する。

未決拘留日数中220日をもその刑に算入する。

被告人から1100万円を追徴する。≫

2004年11月5日、鈴木宗男・衆議院議員（以下、肩書は当時）に実刑判決が下った。

帯広市製材会社「やまりん」からのあっせん収賄罪（500万円）、網走市の島田建設からの受託収賄罪（600万円）、国会での偽証罪、政治資金規正法違反の4つの事件につき、鈴木議員は厳しい断罪を受けた。

2008年2月26日、東京高裁は控訴を棄却。1審判決の内容を全面的に支持し、鈴木氏は厳しい局面に立たされている。

鈴木宗男バッシングが洪水のように始まったのは、2002年初頭のことだ。今思い返しても、実に異様なメディア・スクラム（集団的過熱取材）だったと思う。全マスコミは「鈴木宗男＝極悪人」のレッテル貼りに奔走した。そのすさまじい報道を目にしながら、「鈴木宗男とは何と悪い男なのだ……」と信じ込んでしまった国民も多いことだろう。

事の発端は2002年1月に噴出した。

アフガニスタン復興支援会議に出席を希望していたNGOを、鈴木氏が強権的に締め出した、という疑惑が浮上した。外務省を恫喝し、彼が不当な権力行使をしたというのだ。外務省の一部勢力から上がってきたこの報告を田中真紀子・外務大臣は真に受け、田中VS鈴木の前立構造があらわに

なった。

翌2月になると、今度は「ムネオハウス」騒動が国会で取り沙汰される。口火を切ったのは、共産党の佐々木憲昭・衆議院議員だ。

«（北方領土の）国後に、日本政府が4億1685万を拠出して、友好の家というのが造られているんですね（略）この友好の家は「ムネオハウス」と呼ばれております。この家はムネオという政治家が造ってくれたんだ、現地ではそう言っているんですよ。鈴木議員がいかに深く関与しているか、明らかであります。»（2002年2月13日／予算委員会）

佐々木議員によれば、「ムネオハウス」には「鈴木さん、あなたは私たちの友達です」という意味の横断幕が飾られており、食堂の壁には鈴木氏の写真まで掲げられているという。

鈴木宗男は国庫の税金を使い、北の大地でいったい何をやっているのだ一。国民の間に疑惑と不信が渦巻いた。

佐々木議員の舞台回しが劇場的に成功したこともあり、マスコミ報道を通じて「ムネオハウス」疑惑は拡大再生産されていく。「鈴木宗男＝極悪人」のイメージは、もはや取り返しのつかないほど炎上していた。

鈴木をバッシングする素材は、引きも切らず噴出し続けた。2002年3月には、社民党の辻本清美・衆議院議員による「名セリフ」が飛び出した。

«あなたは疑惑のデパートと言われているけれども、疑惑の総合商社ですよ！»（2002年3月11日／衆議院予算委員会）

「疑惑の総合商社」というキャッチコピーは流行語となり、「鈴木宗男の疑惑をいったいだれが暴くのか」という無言の圧力が高まっていった。

そして2002年6月19日、とうとう鈴木氏は東京地検特捜部に逮捕されてしまう。以後、437日間にも及ぶ長い勾留生活が始まるのだった。

「権力」に操られる検察（三井環 著）より 次号に続く

著者：三井環（元大阪高検公安部長）